

(二〇一六年度)

1 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一 次の記事を読んで、後の問に答えよ。

自然科学の世界でないが知らず、社会科学の世界では、複数個の理論が黒白の付かないまま、同時に共存している様にしてばしばお目にかかる。たとえば近年、ケインズの経済学と反ケインズの経済学がおたがいに反目しあっているが、彼らの争点はいくまでもイデオロギーのないし理念的なレベルにとどまっており、彼らの論争は科学的でないし実証的なレベルまで下りてきているとは言いがたい。なぜそうなのかというと、実証的なレベルで両者に甲か乙かを付けろというのは、ほとんど不可能を要求するに等しい難題だからである。その理由はやはり、防衛帯をとつかえひっかえして「反証のがれ」するための術を、いずれの側の理論も本能的に体得しているからなのである。

この一例からお分かりいただけるように、¹少なくとも経済学においては、反証の積み重ねによる理論の漸進的な「進歩」というのは、願っても叶わぬ絵空ごと²にすぎない。複数個の理論のいずれもがデータと整合的なまま同時に併存しているというのが、社会科学の世界ではしごく当り前の姿なのである。

とはいうものの、理論には流行り廃りがつきものである。戦後しばらくの間は、マルクス経済学がわが国経済学界の主流に居座り、その後、六〇年代の高度成長期には新古典派とケインズ派を融合した新古典派総合の学派が主流の座を占め、七〇年前後にはラディカルズの登場により新古典派は批判の十字砲火を浴び、その後五年も経ぬうちに、こんどは「超」新古典派ともいべき市場万能主義の経済学が復権した。この転換を流行り廃りではなくして「進歩」だと言いつける人はまずいないだろう。

それでは一体、²こうした流行り廃りは何故に起こるのであろうか。少なくとも、ポパーのいう反証主義の図式に倣って学説の盛衰が起こった、とはとうてい考えがたい。栄枯盛衰の鍵を握るのは、どうやらその時代その社会に棲む人々の日常的な生活感覚（日常的知）の変遷のようである。戦後の窮乏は、資本による労働の収奪と資本主義経済のはらむ矛盾を説くマルクス経済学に、文句なしのリアリティーを付与した。そして高度成長の持続は、マルクスの言説のリアリティーを急速に色あせさせるとともに、自由な市場機構と適度の介入を旨とする、新古典派総合の経済学に無類のリアリティーを与えた。七〇年代に入

ると今度は環境汚染の深刻化と福祉の立ち遅れとが目立ちはじめ、一連の経緯は、自由な市場機構の欠陥を説くラディカル経済学に束の間のリアリティーを与えた。そして石油危機を経て後の減速経済下における財政赤字の深刻化と企業合理主義の復権は、公共政策をモットーとするケインズ主義を干からびさせ、反介入主義、市場万能主義の新古典派を再興させた。

社会科学の専門知と生活者としての日常知とが、おたがいに表裏一体の関係にあることは言うまでもあるまい。実際、しかるべき仮説群から出発してなんらかの命題を導こうとする(理論研究にたずさわる)社会学者は、自己の日常知を拠り所として、理論の全体像のもっともらしさをたえず評価しながら、試行錯誤を経て理論の構築をおこなう。これが、³社会学者の理論研究の常態なのである。前提となる仮説と結論の対応関係が、日常的知のレベルにおいてももっともらしい関係として納得されないかぎり、その理論が広範囲に受容されることは望むべくもない。またその反面、仮説と結論との対応関係があまりにも自明であり常識的でありすぎるのは、理論としての評価においてはマイナスに作用する。それ相応の「意外性」をもたない理論は、常識の上塗りにすぎないとして冷笑されるのが落ちであろう。

ここで強調したいのは、⁴もっともらしさにせよ意外性にせよ、その判断を下すのは日常的知にほかならないという点である。論理実証主義者や反証主義者は、導かれた帰結とデータを丹念に照合せよという。演繹の過程は疑いをはさむべからざる形式論理の世界であるし、また仮説の現実味について云々するのはどだい筋ちがいだ、と。たしかに経済学はこうした流儀に忠実に従うことにより、⁵応分の「X」を具備してきた。

わたし個人の意見を言わせてもらえば、こうして獲得された経済学の⁵「X」は捨てがたい貴重な財産だと思ふ。だがしかし、さまざまな学説の栄枯盛衰の様を顧みて思うのは、たんに導かれた帰結とデータとの照合のみが、理論のリアリティーの証ではなさそうだとことである。要するに、社会科学の理論のリアリティーは、仮説、演繹、帰結の三者の連関をトータルに眺めたうえで、われわれが感得するもっともらしさなのである。たとえ仮説が真であることをデータによって証明できなくとも、わたしたちの直覚は、そのもっともらしさについて何ごとかを物語るはずである。また、演繹に用いた数学的手法の適切性についても、わたしたちの直覚はそれなりの評価を下すはずである。ある時代には、精緻きわまりない数量分

析が適切な方法であると感得されるであろうし、また時代が変われば、より骨太な数量分析のほうがかえって人々の感興を誘うこともあるう。

⁶ 六〇年代に特有の時代文脈のなかでは、実証分析は精緻であればあるほど、より高度の説得力をもっていた。ところが、七〇年代後半から最近にかけては、骨太な実証研究のほうがかえって日常的知に訴えるところが大きいように思える。実際、日常的知の変遷に鋭敏に適應してのことか、経済学の実証研究は、近年、とみに精緻化の度を薄めつつあるかのように思えてならない。

導かれた帰結は、それが「有意味」であるかぎりデータとの照合は原則として可能だし、またたとえ「有意味」でなくとも、そのもつともらしさについてわたしたちの直覚がながしかの判定を下してくれる。

七〇年代後半から八〇年代前半にかけて、福祉政策の非有効性を証明するための実証研究が、保守派経済学者により多数書きあらわされた。そこで用いられた手法は、⁷ 総じて骨太な趣きのものが多い。また、導かれた命題そのものの「有意味性」もまたすこぶる怪しげである。しかし導かれた結論は、従来の常識をくつがえすセンセーショナルな趣きのものばかりであった。しかもその結論は、時の政府の政策基調と相呼応するものでもあり、現実の政策運営への影響にもひとかたならぬものがあった。それゆえ保守派の経済理論は、データとの整合性のゆえにはなく、時の政府の政策基調との共鳴、そしてその結論のセンセーションのゆえに一般世論の拍手喝采を浴びるといふ、⁸ 「科学」にあるまじき展開をとげてきたのである。

以上を要約すれば、次のようになるうか。理論の現実的妥当性は、人々の⁹ 「Y」によりトータルに判定される。理論のもつともらしさを判定する「Y」の拠り所となるのは、ほかでもない日常的知である。日常的知のあり方は、社会的文脈(社会の制度および価値観とその機能のありよう)の変化によって少なからぬ影響を被る。それがために、日常的知というものには時間的にも空間的にも移ろいやすい。それゆえに社会科学の理論のもつともらしさや意外性についての評価は、社会的文脈の変化につれて、心もとなく揺れ動く運命にある。

(佐和隆光「夢と禁欲」『科学的方法とは何か』より)

〔注〕ケインズ：一八八三～一九四六。現代経済学に大きな影響を与えたイギリスの経済学者。 マルクス：一八一八～一八八三。資本主義社会の根本的問題を指摘したプロイセン出身の哲学者、経済学者。 新古典派：市場機能を重視する経済学の学派の一つ。 ラディカルズ・ラディカル経済学：一九七〇年前後にアメリカ社会の政治・経済問題を批判的に考察した経済学派。 ポパー：一九〇二～一九九四。オーストリア出身のイギリスの科学哲学者。 論理実証主義：科学的言明の検証可能性を重視する科学哲学上の立場。

問一 傍線部Iのように著者が言うのは、どのような状況が経済学に存在するからか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 経済学の理論はイデオロギー的ないしは理念的なレベルの考えに影響され、反証可能な形で提示されることがいっさいないから。
- b 自然科学と異なり、経済学の理論には防御帯が備わっており、その結果、イデオロギー的な反証のがれをすることが理念になつてゐるから。
- c 反証の積み重ねを通して理論を漸進的に発展させるといふ考えを、ケインズの経済学も反ケインズの経済学も採用していないから。
- d 事実によつて反証されることを逃れる術を各理論が身につけており、その結果、実証的ないし科学的な論争がほとんど不可能になつてゐるから。

問二 傍線部2「こうした流行り廃りは何故に起こるのであろうか」の問いに対する具体的解答の例として、戦後しばらくの間、マルクス経済学が日本における経済学界の主流の座を占めたのは何故だと著者は考えているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 来たるべき高度成長が自由市場と公共政策を組み合わせる考えにリアリティーを与えたから。
- b ポパーの反証主義が経済学に採り入れられ、その結果、新古典派がリアリティーを失ったから。
- c 敗戦後の窮状が資本による労働の収奪と資本主義経済の根本的矛盾を人びとに実感させたから。
- d 環境汚染の深刻化などの様々な社会問題が、自由市場機構の欠陥を人びとに実感させたから。

問三 傍線部3にある社会科学者の理論研究の常態について著者の意見にもっとも近いものを次の中から一つ選べ。

- a 理論の演繹過程を常に日常的知に照らして検証しながら、仮説と結論とを丹念に照合して理論が常識によって反証されないか考える。
- b 理論の意外性に依拠してその理論が広範囲に受容されるかどうかを検討し、それによって仮説と結論との対応関係を常識に近づけるように調整する。
- c 常識の上塗りにならないように、理論の演繹過程を厳密な形式論理の世界で展開し、仮説群と帰結の対応関係も常識とは異なるように理論構築を行う。
- d 自らの日常的知に基づく直観を用いて、前提となる仮説群と理論の帰結の対応関係のもっともらしさを常に評価しながら、理論構築を行う。

問四 傍線部4「もつともらしさにせよ意外性にせよ」について、なぜ著者はこの二つの特性にここで言及しているのか。その理由としてもつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 社会科学の理論では、その前提となる仮説群に意外性が要求され、同時に、その結論部分には日常的知から見たもつともらしさが要求される点で自然科学の理論とは異なっているから。
- b 社会科学の理論では、その前提となる仮説群と結論の間の対応関係がもつともらしくなければならないのと同時に、あまりに自明では価値がなく、相応の意外性を伴っていないと理論として評価されないため。
- c 社会科学の理論では、前提となる仮説群に現実性を要求するのはどだい筋ちがいであり、演繹の過程にこそもつともらしさと意外性を要求しなければならない点で自然科学と異なっているため。
- d 社会科学の理論では、試行錯誤を経て理論の構築を行うのであるから、そこに意外性が入り込む余地があり、その結果、理論の帰結にもつともらしさが伴っていないと理論として評価されないため。

問五 5「X」に入る語としてもつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 倫理性
- b 現実性
- c 科学性
- d 意外性

問六 傍線部6でいう「六〇年代に特有の時代文脈」とは具体的に述べるとどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 環境汚染問題と福祉の立ち後れに伴う社会問題の本格化
- b 石油危機を経ての減速経済下における深刻な財政赤字問題の発生
- c 資本主義経済がはらむ根本的矛盾と人びとの生活の窮乏化
- d 環境汚染の深刻化につながる高度成長の持続と公共政策の台頭

問七 傍線部7でいう「骨太な」とは、ここではどういう意味か。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 気骨があり野心的である
- b おおざっぱで精緻でない
- c 斬新だが慎重でない
- d 根幹がしっかりしている

問八 傍線部8「科学」にあるまじき展開をとげてきたのである」について、なぜ著者はこのように言うのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 前提となる仮説から演繹的に帰結を導き、それをデータと丹念に照合するという科学の基本的手順が全く無視されているから。

b 結論の意外性はあるが、理論のもっともらしさが時の政府の政策基調と呼応しあうものであり、科学としての意外性が得られたとは言えないから。

c 実証分析を日常的知に訴えることによつて骨太に行い、前提となる仮説から演繹的に結論を導き出すことを全く行っていないから。

d 科学というのは前提となる仮説から演繹的に結論を導き出すところまでがその守備範囲であり、結論が政策運営などに影響してはならないから。

問九 9「Y」に入る語としてふさわしいものを次の中から一つ選べ。

a 仮説

b 演繹

c 推論

d 直覚

問十 本文の趣旨としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 社会科学の理論は自然科学の理論を模してはいるがそれには演繹的厳密性も反証性もなく、データとの整合性ではなくて、政府の政策基調と相呼応することにより現実的妥当性を獲得し、結論の意外性によって評価されるという科学にあるまじきものである。

b 社会科学の理論はその理論構成だけからいえば自然科学の理論と同じだが、その現実的妥当性を規定するのは、その時代その社会に棲む人びとの日常的な生活感覚であり、それゆえ、社会科学の理論の評価は社会的文脈の変化につれて移り変わる運命にある。

c 社会科学の理論は数学的手法を用いた演繹的理論であり、前提となる仮説群から演繹的推論を経て一定の結論を導き出す、その導き出された結論と現実のデータを丹念に照合することにより、反証の積み重ねが行われて、理論の漸進的進歩が得られることになる。

d 社会科学の理論は新古典派にせよケインズ派にせよあくまでもイデオロギー的ないしは理念的なレベルの理論であり、前提となる仮説群から演繹的に帰結を導き出すという理論構成を取っておらず、したがって、理論の漸進的進歩は見られずに、単なる流行り廃りのみが観察される。

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

この男、また、はかなきものたよりにて、雲居¹よりもはるかに見ゆる人ありけり。ものいひつくべきたよりにかりければ、いかなるたよりにして、気色見せむと思^アひて、からうして、たよりをたづねて、ものいひはじめてけり。「いかで一度にても、御文ならで、聞えしがな」といふを、いかがはあべき、げに、よそにても、いはむことをや聞かましと思^ウひけるほどに、この女の親の、わびしくさがなき朽^{くち}姫^{ひめ}の、さすがにいとよくもの気色を見て、かしがましきものなりければ、かく文通はすと見て、文も通はさず、責め守りければ、この男は、せめて、「対面に」といひければ、この女ども、「かかかる人の制したまへば、雲居にてだにもえ」などいひ聞かせよとてなむ、迎ふる」といひければ、「今まで、なかおのれにはのたまはざりつる。人の気色とらぬ先に、月見むとて、母の方に来て、わが琴弾かむ。それにまぎれて、簾のもとに呼び寄せて、ものはいへ」とぞ、この、来たる親族³ばかりける。さて、この男来て、簾のうちにてものいひける。この友だちの女、「わが徳ぞ」といひければ、「うれしきこと」など、男、女いひ語らふに、この、母の女のさがなものの、宵まどひして寝にけるときこそありければ、夜ふければ、目さまして起き上がりて、「あな、さがな。などて寝られざらむ。もし、あや⁴やある」といひければ、この男、簀子のうちに、はひ入りて隠^エれにければ、のぞきて見るに、人もなかりければ、「おいや」などいひてぞ、奥へ入りける。その間に、男、いで来たれば、「よし、これを見たまへ」かかればなむ。命⁶あらば「などいひけるほどに、「あやしくも、いませぬるかな」といへば、男、帰りぬ。

⁷たまさかに聞けと調ぶる琴の音のあひてもあはぬ声のするかな

といひたれば、この、琴弾きける友だちも、「はや返ししたまへ」といひけるほどに、親聞きつけて、「いづこなりし盗人の鬼の、わが子をば、からむ」といひて、いで走り追へば、沓^{くつ}をだにもえ履きあへで、逃⁸ぐ。女どもは息もせで、うつぶしふしにけり。かかりけれど、いみじう制しければ、言の通はしをだにえせで、ものいひけるたよりを尋ねて、寄せざりけるほどに、こと人にあはせてけり。さりければ、男、親さあはすとも、さやはあるべきとぞ、思ひ憂⁹じてやみにける。

〔注〕○この女ども 女付きの女房。 ○簾のうちにてもいひける 主語は女。 ○この友だちの女 「来たる親族」のこと。

○おいや 驚いたり思いついたりした時に発する語。 おやおや。 ○からむ 捕まえる。

問一 傍線部「雲居よりもはるかに見ゆる人」とあるが、どのような人か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 天皇の妻となることが予定されている女性。
- b 高嶺たかねの花で手の届きそうにない女性。
- c 遠く離れたところに住む女性。
- d 長い間求婚し続けてきた女性。

問二 波線部ア～エのうち、主語が他の三つと異なるものを一つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ

問三 傍線部2「この女ども」と傍線部3「親族」の会話の内容はどのようなものか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 「この女ども」は、男に女をあきらめるように説得することを「親族」に頼もうとしたが、「親族」は男と女の母親が話し合える場を作ることを約束した。

b 「この女ども」は、男に女をあきらめるように説得することを「親族」に頼もうとしたが、「親族」は反対している母親を説得する方法を提案した。

c 「この女ども」は、男に女をあきらめるように説得することを「親族」に頼もうとしたが、「親族」は自分が一肌脱いで二人を会わせる方法を提案した。

d 「この女ども」は、男に女をあきらめるように説得することを「親族」に頼もうとしたが、「親族」は女が男に直接苦情を言える場を設けるよう約束した。

問四 傍線部4「あや」とはどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 理屈、理由

b 仲介人

c 美しい衣をまとった人

d 文様

問五 傍線部5「人もなかりければ」とあるが、なぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 母親が外をのぞいた時、男が簾のもとから離れて簀子の下に隠れていたから。
- b 母親が外をのぞいた時、夜中なので真っ暗で誰もいないように見えたから。
- c 男が様子をうかがった時、女の母親は通り過ぎた後だったから。
- d 男が様子をうかがった時、女が部屋の奥へ入ってしまったから。

問六 傍線部6「命あらば」と言った男の心情について、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 病弱な女の命がまだあるならば、また必ず会おうということ。
- b 女の母の命があるうちは、今度いつ会えるかわからないということ。
- c 二人の命があるうちは、女の母を絶対にゆるさないとということ。
- d 人の寿命は分からないが命さえあれば、またきつと会えるということ。

問七 傍線部7「たまさかに聞けと調ぶる琴の音のあひてもあはぬ声のするかな」の和歌の説明として正しくないものを次の中から一つ選べ。

- a 男が帰りがけに女に詠んだ歌である。
- b 琴の音が「合ふ」と二人が「逢ふ」が掛詞になっている。
- c 琴の音が合うように、また二人が逢えることを願う気持ちが入められている。
- d やつと会えたと思ったら邪魔が入るあつけなさを嘆いた歌である。

問八 傍線部8「女どもは息もせで、うつぶしふしにけり」とあるが、なぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 母親が入り込んだ泥棒を追い払ってくれるまで、見つからないように身を潜めていたから。
- b 母親を欺いたため、それが知られればきびしい叱責を受けると思ったから。
- c 母親が飛び出してきたのは予想外だったので、どうしていいか分からなかったから。
- d 男を捕まえるために追いかける母親があまりに恐ろしかったから。

問九 傍線部9「やみにける」とあるが、なぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 女は親によって他の男と結婚させられたが、それについて何の便りもなかったことを男はひどくつらく思ったから。
- b 女は親によって他の男と結婚させられたが、いくら親のしたこととはいえ、あっさり従った女に男は嫌気がさしたから。
- c 女と会えない間に男には他の女ができてしまい、この女の親のことを考えると会いにいくのが億劫おっくうになったから。
- d 女と会えない間に、男も自分の親が強く勧める相手と結婚してしまい、親の言いつけに従う自分がいやになったから。

問十 女の親はどのような人物として描かれているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 娘にふさわしい男性と結婚させるため、一生懸命ではあるが、少々度が過ぎることもある健気けんげな母親。
- b 周囲から理解を得られず、頑固で、まわりが見えずに一人で空回りしてしまう哀れな女性。
- c 自分の果たせなかった幸せを娘に望むあまり、少しでも娘にとって障害になるものを除こうと必死な母親。
- d 意地が悪く、自分の思いをむやみに通そうとし、その場に応じた適切な行動のとれない品のない老女。

三

次の文章は、『理惑論』の一節である。『理惑論』は、仏教教義を問答体の文章で解説した仏教伝来初期の書で、問いに対し、牟子(著者)が答えるという体裁を取っている。これを読んで、後の問に答えよ。

問曰、何謂之為道。道何類也。

牟子曰、道之言導也。導人致於無為。牽之無前、引之無後。拳

之無上、抑之無下。視之無^X、聽之無^Y。四表為大、蜿蜒其

外。毫釐為細、間闕其内。故謂之道。

問曰、孔子以五經為道教、可拱而誦、履而行。今子說道、虛無

恍惚、不見其意、不指其事。何与聖人言異乎。

牟子曰、不可以所習為重、所希為輕、或於外類、失於中情。立

事不^ル失^ハ道德、猶^シ調^ヘ絃^ヲ不^レ失^ハ宮商。天道法^ニ四時^ニ、人道法^ニ五常^ニ。

老子曰、「有^レ物混成、先^ニ天地生。可^シ以^テ為^ル天下母。吾不^レ知^ニ其名^ヲ。強^ヒテ

字^{あざなシテ}之^ヲ曰^フ道^ト。道之^{ルヤ}為^レ物、居^{リテハ}家^ニ可^ク以^テ事^フ親^ニ、宰^{つかさどりテハ}宰^レ。国^ヲ可^ク以^テ治^ム民、独
 立^{シテハ}可^シ以^テ治^ム身^ヲ。履^{ミテ}而^レ行^ハ之^ヲ充^チ乎^ニ天地^ニ、廢^{シテ}而^レ不^レ用^ヒ消^{ユレド}而^レ不^レ離^レ。子^{不^レ解^セ}
 之^ヲ何^ノ異^カ之^ヲ有^{ラム}乎[。]

〔弘明集「理惑論」〕

〔注〕○四表—宇宙。 ○蜿蜒—うねりくねって長く続くさま。 ○毫釐—微細なこと。 ○間関—うごめくさま。

○宮商—古代中国の音階、五音(宮・商・角・徵・羽)の二つ。

問一 傍線部1の理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 無限であるから。
- b 無駄であるから。
- c 方向がないから。
- d 存在しないから。

問二 空欄X・Yに当てはまるものを次の中から一つずつ選べ。

- a 形
- b 人
- c 義
- d 声
- e 影

問三 傍線部2「五経」に当てはまらないものを次の中から二つ選べ。

- a 論語
- b 中庸
- c 礼記
- d 詩経
- e 尚書
- f 春秋

問四 傍線部3「聖人」とは、何の聖人か。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 儒教
- b 仏教
- c 道教
- d 政教

問五 傍線部4は、どういう意味か。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 学習して得たものを偏重して、希望を抱かないようにすること。
- b 熟知していることばかりがありがたがり、目新しいものを見くびること。
- c 経験を重視するばかりで、未知のものを軽視すること。
- d 勉学に励むことばかりを尊重して、まれに起こる幸運を軽蔑すること。

問六 傍線部5「五常」に当てはまらないものを次の中から二つ選べ。

- a 仁
- b 義
- c 忠
- d 礼
- e 智
- f 信
- g 孝

問七 傍線部6は、どういう意味か。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a おまえにはこの道理が理解できないだけのことだ。
- b 君子には真実の道を説明することはできないのだ。
- c 孔子には道が何であるかわからないのだ。
- d 弟子には道の実体を説明することは不可能だ。

問八 傍線部7は、何と変わることはないと言っているのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 無為
- b 老子
- c 天地
- d 五経

問九 本文で「道」について述べていることに当てはまらないものを次の中から一つ選べ。

- a 道は永遠である。
- b 人を導くのが道である。
- c 道とは宇宙の外側にまで存在するものである。
- d 道を修めれば、家庭では親に仕え、国家では人々を支配することができる。

